

# 令和5年度 嶺北森林管理署の重点施策

～ 地域の林業成長産業化に向けた取組 ～

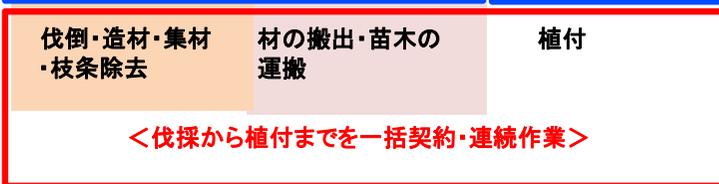
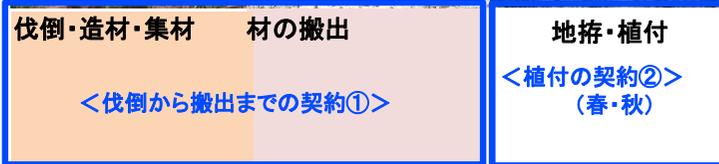
令和5年4月

嶺北森林管理署

# 1 伐採・造林の一貫作業によるコスト削減と 複数年契約による安定した事業量の確保・事業体の育成

- 伐採・搬出から植栽の作業を一括発注する「一貫作業」を2地区、南国市(黒森山)、香美市(向山)で実施。伐採から造林事業のトータルコスト削減を推進。また、「伐って、植える」ことにより、確実に造成していく。
- 複数年契約を2地区、いの町(奥南川山)香美市(谷相山)で実施し、複数年に渡る安定した事業量の確保、経営・雇用の安定や事業体の育成に取り組む。

## ■一貫作業システムと従来システム



## ■令和5年度 一貫作業実施地区(誘導伐+植栽)

所在地	国有林名	面積(ha)	備考
南国市	黒森山	6.60	一括発注
香美市	向山	6.50	一括発注

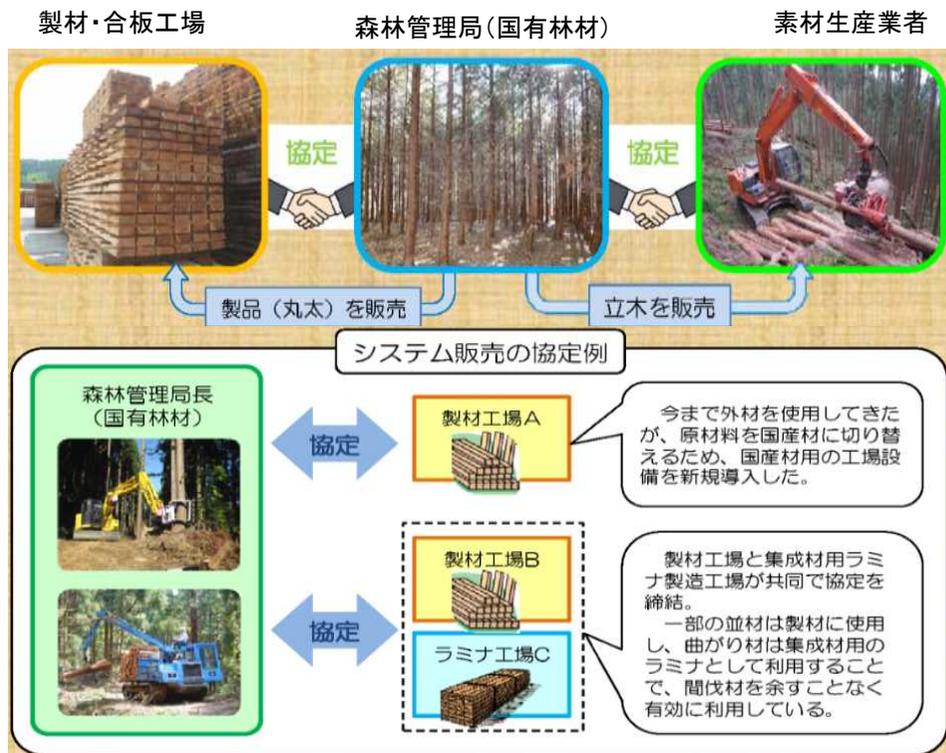
## ■令和5年度の複数年契約実施地区

事業年度	所在地	国有林名	面積(ha)	予定数量(m3)
R4~R5年度 (2ヶ年)	いの町	奥南川山	63	10,000
R5~6年度 (2ヶ年)	香美市	谷相山	48	8,000

# 2 国有林材の安定供給

- 民有林と国有林の連携、立木販売の強化等により、国有林材42.7千 $m^3$ (製品(丸太)換算)を安定供給  
R4年度実績18.1千 $m^3$ (製品18.1千 $m^3$ ) → R5年度42.7千 $m^3$ (製品22.0千 $m^3$ 、立木20.7千 $m^3$ )
- 民国連携した4つの森林共同施業団地からの安定供給(住友林業、香美森林組合、高知県、土佐町森林組合)

## ■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み



## ■ 嶺北署管内における素材生産の様子



## ■ 嶺北署の国有林材の供給量

(千 $m^3$ )

	H30	H31	R2	R3	R4	R5
供給総量	25.0	27.6	18.8	19.1	18.1	42.7
製品販売	16.9	17.5	18.8	19.1	18.1	22.0
システム販売	15.6	16.2	18.0	17.8	17.3	20.2
立木販売 (製品換算70%)	11.5 (8.1)	14.4 (10.1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	29.6 (20.7)

※H30~R4年度は実績値。立木販売の製品(丸太)換算率は70%

## ■ 4つの森林共同施業団地の概要

協定名称	締結日	市町村等	協定面積 (ha)	協定面積		備考
				国有林 (ha)	民有林 (ha)	
いの町本川地域(戸中、葛原)の森林整備の推進に関する協定	H21. 8. 6 H26. 3.20 H31. 3.28	住友林業(株) 新居浜山林事業所	287	220	67	戸中団地
			430	271	158	葛原団地
南国市中ノ川地域の森林整備推進に関する協定	H23. 8. 4 H27. 3.19 R 2. 3. 6	香美森林組合	1,627	533	1,095	
大豊町立川地区の森林整備の推進に関する協定	H27. 9. 4 H31. 3.29	高知県林業振興・環境部	603	290	313	
土佐町桜山地区の森林整備の推進に関する協定	H29. 3.30 H31. 3.19	土佐町森林組合	329	277	52	

# 3 シカ・ノウサギ等による被害対策の推進

○ 民国が一体となって被害対策を推進。平成28年1月に中江産業(株)と締結した「ニホンジカによる森林被害防止協定」により、いの町内の社有林・国有林へ「くくりわな」を設置し、一体となってシカ捕獲を実施。

また、職員による囲いわな・くくりわな等でのニホンジカの捕獲を実施。

近年ではノウサギによる被害も増加しており、防護ネットの設置や単木保護を実施。

## ■ 協定によるニホンジカの捕獲頭数の推移

(単位:頭)

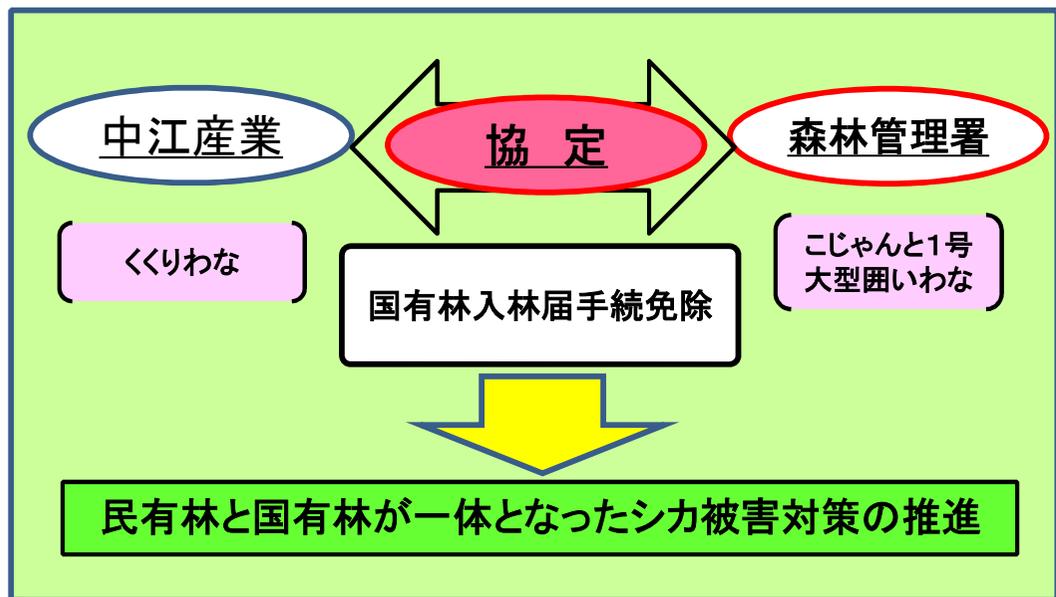
H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
74	91	70	44	117	99

## ■ 職員によるニホンジカの捕獲頭数の推移

(単位:頭)

H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
36	45	104	64	77	75

## ■ シカ被害対策連携協定



## ■ 獣害対策の例



(防護ネット)



(単木保護)



(大型囲いわな)



(こじゃんと2号)

# 4 地域の安全・安心を守る山地防災力の強化

○ 近年の大雨や短時間強雨の増加により、大規模、多発化している自然災害から地域の安全・安心を確保するため、本年度は17箇所で行山事業を実施。(R4年度18箇所14.8億円 → R5年度17箇所15.1億円)

また、令和3年度より着手している吉野川上流地区民有林直轄行山事業においては、高知・徳島両県を跨ぐ広範囲の山腹崩壊等の復旧に継続的に取り組み、地域の方々が安心して暮らせるよう早期復旧に取り組む。

## ■ 平成30年7月豪雨による被災箇所

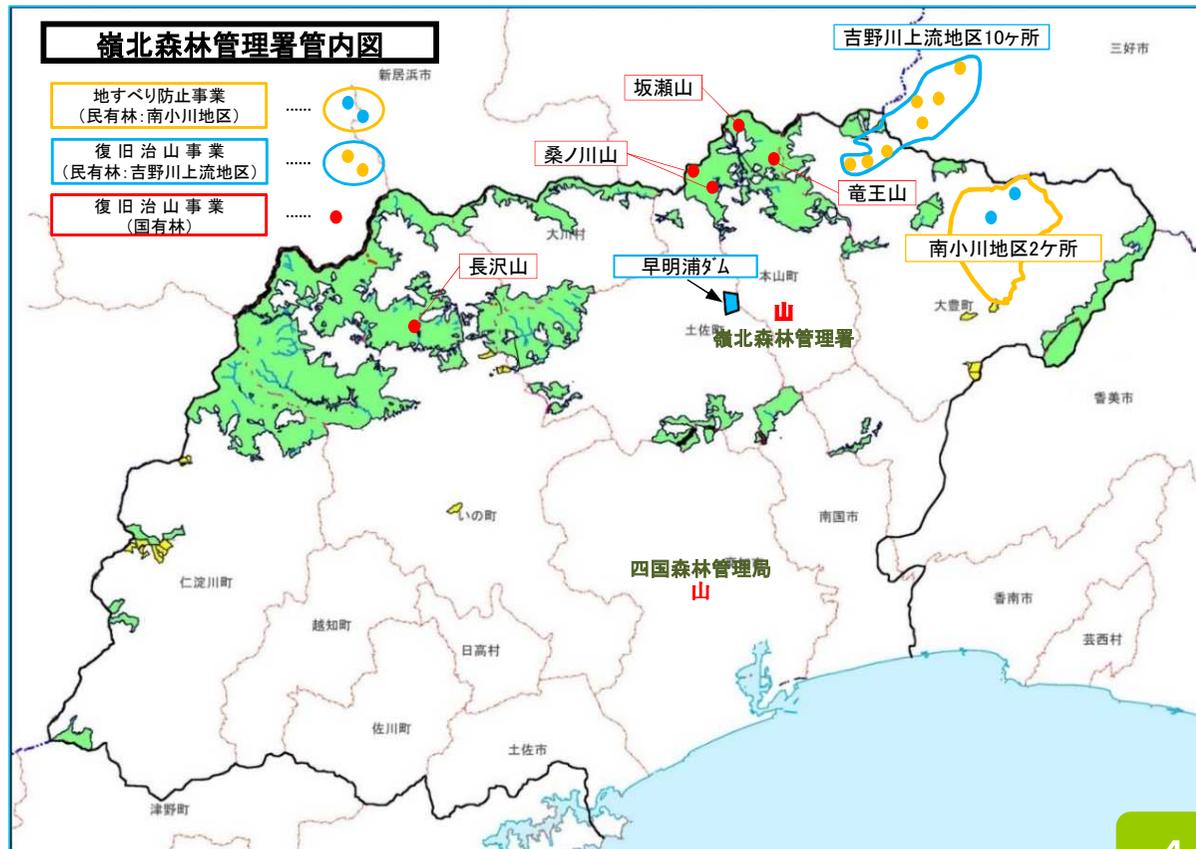


大豊町立川



三好市根津木

## ■ 令和5年度 嶺北署管内の復旧行山事業・地すべり防止事業の実施予定地区



復旧状況(竹ノ川国有林)



復旧状況(南小川)

## 5 地域の課題への対応

- 高吾地域(仁淀川・越知町・佐川町)の豊富な森林資源を有効に活用し、地域の主要な産業である林業及び木材産業の成長産業化を実現するため、平成29年9月「高吾北地域原木安定供給協議会」が設立され、署はオブザーバーとして参加し、活動を支援。
- 嶺北5町村(大豊町、本山町、土佐町、いの町、大川村)は、地元大型製材工場や木質バイオマス発電所に対する原木の増産と安定供給体制の構築のため、平成29年1月「嶺北広域原木安定供給協議会」が設立され、署はオブザーバーとして参加し、活動を支援。
- 嶺北地域唯一の高校である県立嶺北高校の活性化のため、毎年、生徒に森林・林業に関する講義と現地見学等の森林環境教育を実施し、活動を支援。  
岡豊高校では「総合的な探究の時間」にて、高知県の産業成長戦略のひとつである「林業分野」について、授業の中で学習することとしているため、継続して出前講義要請に応じていく。

### ■ 森林環境教育



嶺北高校講義の様子



嶺北高校現地講義の様子



岡豊高校講義の様子

# 6 CLT庁舎を活用した木材利用の促進

○ 国の庁舎として、初めて本格的にCLTパネル工法を採用して建築された庁舎を活用して、公共建築物における木材利用の促進に努める。  
また、視察や学校教育等での見学会を受け入れを通じて、森林の大切さや木材の効果についてPRする。

## ■ 嶺北森林管理署CLT庁舎



## ■ 木材の使用状況



CLTの使用状況(2階)



CLT内壁と床サクラ材(2階)



広葉樹のCNFシーラー(セルロースナノファイバー)をコーティングしたフェンス

# 7 嶺北地域の魅力ある「国有林」をPR

○ 植物学者・牧野富太郎博士が白髪山国有林を歩いた足跡をこのたび四国森林管理局にてパンフレットにとりまとめられたので、嶺北地域の植物多彩な魅力ある国有林の宣伝活動を行う。

## 牧野富太郎が歩いた「国有林」

植物学者・牧野富太郎博士。博士が72歳の昭和9年8月に、高知営林局<sup>※1</sup>に招かれ、魚梁瀬(現・高知県馬路村)や白髪山(現・高知県本山町)において、営林局職員に対し、植物の採集指導を行いました。  
「高知林友」<sup>※2</sup>に、牧野博士と行動を共にした当時の職員が記録を残していました。

### 牧野博士の行程

- 昭和9年8月
- 5日 高知発、田野貯木場を経由し、魚梁瀬営林署管内の西川事業所泊
- 6日 千本山保護林で指導調査、魚梁瀬営林署管内の石仙泊
- 7日 午前、石仙で採集・鑑定の上、午後高知へ
- 8日 高知から本山を経由し、本山営林署管内の白髪山作業所泊
- 9日 白髪山国有林で指導調査し、本山町泊
- 10日 帰全山の植物調査を行い、高知に戻る



### 「高知林友」が伝える牧野博士の様子

自らを「植物の精」と呼んだ博士像そのままに、植物の採集や指導にあたり、植物を愛する様子が克明に書かれており、職員が牧野博士から感銘を受けた様子が伝わってきます。



高知林友 第172号(昭和9年10月)

殊に先生の植物に対する愛着心から、研究の熱心なる裏に学者としての態度に感嘆を抱く程のものがあつたのであります。私には多くの植物を教わつた以上、植物と心を通はすといふ先生の真剣な研究態度を目の当たりに見て我が研究の足らぬを痛感すると共に或一つの大きな教訓を享けた次第であります。

それから高敬眼させられたのは先生の植物に対する愛護の態度で、先生は一本一草、一葉一茎と雖も決して無意味に採集しては行かない。総て研究の爲めの採集であるこの御考を常に持たれている点があつたことが出来るのであります。又其の珍奇な物は決して能くやさしいように保存されるという御心算を常に持たれていることでもあります。

「流石は植物界の泰斗だ十一」の感念にみんなの顔には緊張の色が透れた。其の偉大な権威に接し、其の熱心に驚異した。そして其の学者の如何なるものか我々の脳裡に深く印象付けられ、植物研究以外に何かを我々に争たてて下さったことを痛感した。

### 林業遺産「大正・昭和初期の林業関係写真」

四国森林管理局には、大正～昭和初期の林業関係の写真帳が保存されており、当時の林業活動の様子をうかがい知ることが出来ます。牧野博士が訪れた際に撮られた写真ではありません(博士訪問の10～20年程度前の様子と推定。)が、牧野博士が訪れたとされる場所の写真も残されています。本誌では、この林業遺産の写真とともに、博士の行程をご紹介します。



千本山保護林(現・高知県馬路村) 白髪山保護林(現・高知県本山町)

## 牧野富太郎が歩いた「国有林」～白髪山編～

牧野富太郎博士は昭和9年8月8日から10日まで、本山営林署<sup>※1</sup>管内で植物の採取指導を行い、「白髪山保護林」などを訪問しました。「高知林友」には、汗見川畔を森林鉄道ガソリン機関車で登り、本山営林署の事業所に宿泊、翌日には白髪山保護林を経て、白髪山に登山した様子が記録されています。

### 白髪山保護林



白髪山保護林は、江戸時代までの天然ヒノキの利用の歴史を経てなお残る美林として、大正4年10月に、保護林制度に基づく字跡参考保護林に指定されました。

### 白髪山作業所



当時の営林署の山仕事の拠点。相当数の作業員を宿泊、共同生活させながら、伐採や造林作業が行われていたようです。上段は事務所及び所員宿舎、下段は人夫小屋と物品供給店だったそうです。

### 当時の山仕事の様子



当時、チェーンソーは無く、人力での伐採が行われていました。写真は斧や半斧「三ツ割切り」という方法で切られている様子です。(現・高知県本山町 龍王山国有林)



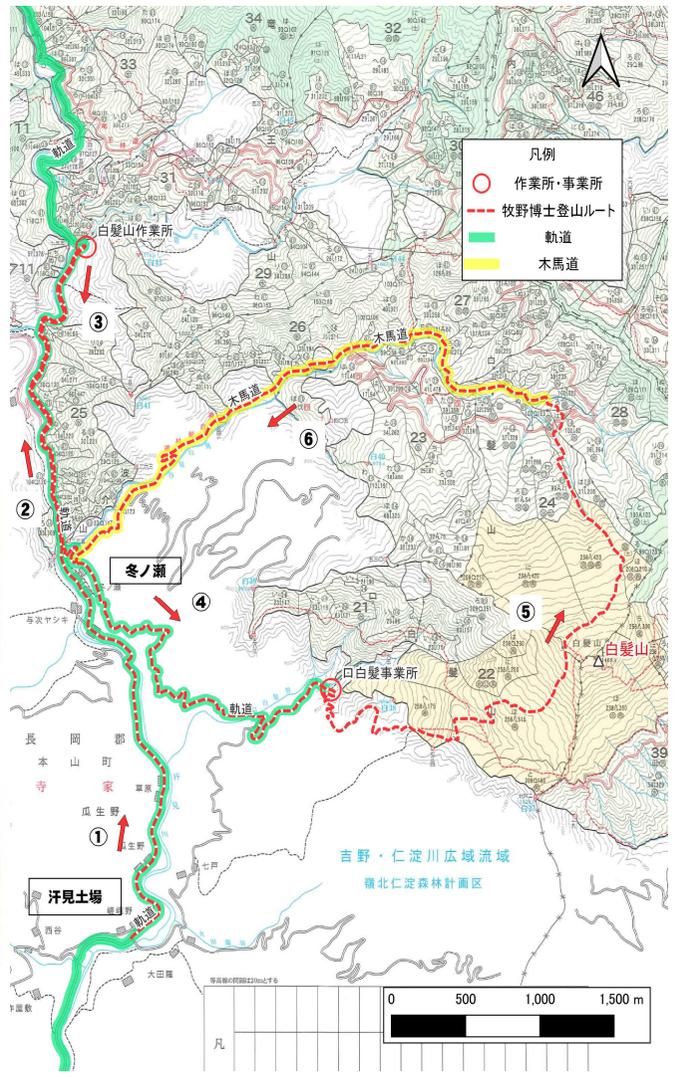
### 汗見土場



白髪山作業所との間には軌道が通り、そこから運ばれてきた丸太や木炭を収蓄していました。丸太はこの下流から吉野川を流送し(丸太一本ずつ、途中からは沓に組み込み)、徳島市に搬出、さらに阪神市場に出荷されていました。



燃料が薪炭だった時代です。雑木や桜などは、山で木炭に加工され、出荷されました。(現・高知県津野町 大古味山国有林)



※1 高知営林局：現在の四国森林管理局の前身となる組織で、四国4県の国有林を管理・経営していました。  
※2 「高知林友」：大正3年7月に月刊の発刊開始による高知林友会が発足しました。毎月1冊「高知林友」誌を発行し、職員間の意見交換、和親調和、情報等を深めるとともに、株主、林業従事者の発刊機能的役割をもつて出版されたものとされています。  
【参考文献】高知林友(1972)、高知林友第171号(昭和9年9月号)、第172号(昭和9年10月号)、田野先生新字に、出版名義は現代版名義にしてあります。

※1 本山営林署：現在の嶺北森林管理局の前身。  
※2 本誌の写真は、四国森林管理局が所蔵する林業遺産「大正・昭和初期の林業関係写真」にもあつたもので、当時の林業活動の様子をうかがい知ることが出来ます。牧野博士が訪れた際に撮られた写真ではありません(本誌に「高知林友」(1972)、高知林友第172号(昭和9年10月号)、田野先生新字に、出版名義は現代版名義にしてあります。)

局制作の「牧野富太郎が歩いた国有林」のパンフレット

牧野博士が歩いた足跡